

「白石川サッカー公園」が完成

市が郡山西堀地内の白石川河川敷に整備を進めていた人工芝のサッカー専用競技場「白石川サッカー公園」がこのほど完成し、12月12日に落成イベントが行われます。



▲急ピッチで工事の進む白石川サッカー公園（11月14日撮影）その後、天然芝の観覧スペースや防球ネットなども整備されています。

市民の願いを実現

サッカー専用競技場整備

市内のサッカーチームは小学生からシニアまで20チーム以上。500人を超えるサッカー愛好者がいます。しかし、学校のグラウンドをほかのスポーツと共用で使用するなど、活動場所や使用時間の確保に苦労することもあり、「市内にサッカー専用競技場を！」が多くの市民の願いとなっていました。そんな中で、昨年の11月、白石サッカー協会が市にサッカー専用競技場の整備を求める陳情書を提出。今年2月には、市内のスポーツ少年団に所属する小学生や、学校のサッカー部に所属する中学生、レディースチームの皆さんなどがかけた「専用競技場を！」といった熱い要望を書いたハガキ70通も市長のもとに届きました。



▲子どもたちから届けられた要望ハガキ



▲練習中の白石サッカースポーツ少年団の皆さん（11月6日）

市では、市民の皆さんの熱意に応えるべく、サッカー場整備の検討を開始。調査検討の結果、郡山西堀地内の白石川河川敷に整備することに決定し、河川管理者である宮城県から占用許可をとり、8月から工事を開始しました。財源面では、平成12年と14年のソニー白石セミコンダクタ株の工場増設による「産業再配置促進費補助金」（工場などの新增設面積に応じて、体育施設や児童施設整備に補助金を出す国の制度）の交付を受けて整備を進めました。

サッカー公園に期待する市民の声

「スポーツ少年団の小学生から」
土よりずっといい。完成が楽しみです。
芝のサッカー場でプレーできてうれしい。
「スポーツ少年団のコーチから」
専用の立派なサッカー場ができるということで、子どもたちの意識も違ってきています。
白石サッカー協会会長の
佐藤さんからの

サッカーをする者にとって、芝のコートでプレーするのは夢なので、みんなわくわくしています。シニアチームも、こけら落としの日に親善試合をしようとユニフォームを新調したんですよ。



●総面積(占用面積)	約25,000㎡
●サッカーコート(人工芝)	115m×75m
●観覧スペース(天然芝)	1,980㎡
●駐車場	収容台数:141台
●簡易式トイレ	木造平屋建1棟
●防球ネット	延長432m
●整備費用	約1億6,000万円



高性能人工芝を採用

白石川サッカー公園のサッカーコートには、高性能の全天候型人工芝を採用しました。人工芝は、天然芝のような専門的な維持管理が不要。近年の技術革新により、天然芝に限りなく近い人工芝が開発されています。

「全天候型人工芝の特徴」

人工芝のパイル(葉茎)のすき間にゴムチップと微小な砂を充てんすることで、プレー感覚は天然芝に近く、適度の衝撃吸収性により、骨や筋肉に負担をかけません。また、滑りの良いパイルが摩擦を減らし、やけどや擦り傷を防ぎ、耐久性や透水性にも優れています。



▲白石川サッカー公園の人工芝

白石川サッカー公園に関する 問い合わせ

都市計画課 ☎22-1325

※白石川サッカー公園の一般使用開始は、12月の市議会で関連議案が成立した後、来年1月から予定しています。使用料や使用時間などの詳細は1月号の広報しろいしなどでお知らせします。

サッカー公園落成記念 姉妹都市交流 少年サッカー大会

●日時 12月12日(日)10時～

〔落成式 9時～〕

サッカー公園の落成式に引き続き、記念イベントとして姉妹都市の登別市・海老名市から小学生を招き、親善交流サッカー大会を開催します。ぜひご観戦ください。
●交流内容 登別市と海老名市の小学生チームが来白。白石市の選抜チームと親善試合を行います。登別市と海老名市の選手は、白石市の選手宅にホームステイして交流を深めます。

◎白石市姉妹友好都市交流協会
(事務局・市総務課内)
☎22-1331



▲サッカー大会イメージ
(11月7日の大平カップ大会)